

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 31 号

2008 年 6 月 1 日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

苗が足りない！！

名戸ヶ谷小5年生47名が田植え

5月8日(木)、好天に恵まれて、名戸ヶ谷小学校5年生児童47名、それに5名の先生方、お母さん方やお手伝いのビオトープ会員が参加する中で、恒例の田植えが朝の9:15分からにぎやかに行われました。身仕度や植え方の注意について説明をしてから田圃に入りましたが、いざ始めてしまえばマイペースの子どもたちです。3列植えが1列植えになったり、靴下が脱げてしまったりで大騒ぎでした。でもさすがに慣れてからはよいペースになり、始めてから30分強で植え終わりました。先生方やお母さんたちの応援もありました。

ことしの苗は根土もよく、扱いやすかったようです。しっかりと根付くでしょう。植え直しをしましたが、田んぼの中に「かわいいおしりの跡」がついていましたよ。なお、もち米水田は箱数が14箱と昨年より一箱多かったのですが、苗の本数が少なかったため、いつもより一枚少ない面積にしました。(小笠原 智)



ひとくちインタビュー — 田植えを終えた5年生、先生方、見学のお母さんに聞きました

- 気持ちわるかったけど途中から楽しかった(男子)
- 汚いと思ったけど、やってよかったと思う(男子)
- 気持ち悪かったけど慣れると楽しかった(男子)
- 初めての田植えだけどうまくできた(女子)
- 楽しかったです。初めての経験です(教育実習生)
- 泥に親しみながら無事に終わりました(担任の先生)
- 転んだりしたけど楽しかった(女子)
- 最初は不安だったけど、面白くて時間を忘れた(女子)
- 苗を植える時ちょっとこわかったけど楽しかった(女子)
- 田んぼが深くてはまりそうで怖かった(女子)
- 土の匂いがすごくてちょっと心配でした(父母)
- たまにはこんな経験もいいものですね(父母)

5年児童の感想文より



ビオトープに着いて、おじさんたちに聞いてから田んぼに入りました。最初は気持ちが悪かったけれど、だんだん慣れておもしろくなってきました。くつ下がぬげそうになったりしたけど、何とか植えられました。(5年女)

中に入ったら「なにこれ、足がぬけない」と言いました。でもやっているうちに歩き方のコツもつかんできました。こんなに米作りが大変だということがわかりました。ふだん何気なく食べていたお米のありがたさがわかりました。(5年男)

植えるより足を抜くのが・・・

不耕起水田の田植え

今年も豊作を願って5月10～11日の両日で粳米の田植えをしました。今年の苗は例年になく小ぶりでいささか心もとない感じである。「もち米水田」の一枚を粳米で補完するため、一株2本程度の節約田植えに取り組みました。

「草取りと田植え」を並行しての作業で、初めは進行速度も鈍かったけれど、慣れるに従い、ベテランの手さばきで初日予定の4枚(3, 4, 5, 6番)を済ませました。



2日目。掲示板(「田植え体験募集」)を見て参加された加藤さんと一緒に残り2枚の田んぼを午前中に完了。節約のお陰で一枚分の苗も確保。午後、山谷さんの孤軍奮闘のお陰で残り一枚の田植え作業を終えることが出来ました。みなさんの協力に感謝いたします。(窪田 孝志)

初体験記 田植えは初めての体験です。もっと楽かと思っていたけれど、尻餅はつくし、足はとられるし・・・植えるよりも足を抜くのが大変だった。スピードはみなさんの半分です。

星合正明

おいしい米をつくるぞ！

肥料の散布

4月29日に水稻用元肥を散布しました。魚肉エキス60%、米ヌカ油粕40%の有機肥料です。もち水田に35Kg、うるち水田に45kg、合計80kgです。収穫量の増量とおいしい米ができることを期待します。追肥は穂が出る前に散布します。(小笠原 智)



苗の受取り

苗は今年も日本不耕起栽培普及会にお願いしていました。連休中の5月5日、小笠原、窪田、影山、外川、小山、才川の6人が2台の車に分乗して苗を引きとりに佐原市の神崎支所へ出向きました。残念ながら、岩澤先生はイベントで多忙とのことでお会いできませんでした。

○ **うるち米の苗**： 数も昨年と同じ、20枚です。今年の苗は昨年より成長が遅れていましたが、田植えまでは時間もあり、大丈夫でしょう。

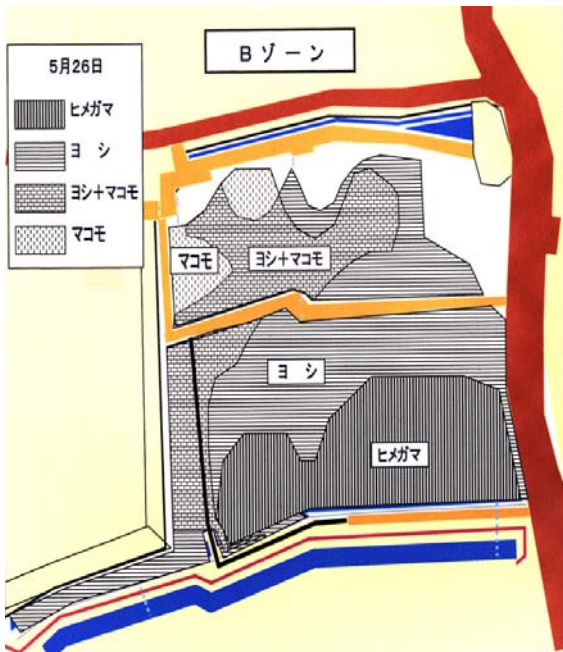
○ **もち米の苗**：

昨年までは一般の田植え機に合わせて、丈の短い3.5葉の稚苗を手植え用の5.5葉の成苗にして使用していました。そのため根が絡まり、注意しないと田植えの際に根を切ってしまう。昨年は根を切ってしまった苗が多く、田植え後の生育が遅れ、それが雑草繁茂の一因ともなり収穫に大きく影響しました。その反省から今年は、もち米の籾米を日本不耕起栽培普及会に送り、苗をお願いしました。苗13枚をお願いしてありましたが、発芽が悪く、一枚当たりの苗の数が少なく、14枚全てを頂きましたが、足りるかどうかが心配でした。(才川 寿麿)

春の生態系調査

5月26日(月)

植物



大型植物(ヨシ、マコモ、ヒメガマ)の芽がどんどん大きくなってきました。ビオトープではこの大型植物は水深による棲み分けが進んでいて、水深が深いところから浅い方に向かって、ヒメガマ→ヨシ→マコモの順に生えています。



ビオトープのガマ類はヒメガマ以外にガマとコガマがあります。そのガマとコガマはヒメガマが群生する水深の深い場所では全く見られず、水をかぶらない場所に追いやられています。ガマとコガマは極端に数が少なくなり、一時は消えてしまうのかと危ぶまれましたが、今年はガマが少し増えてホッとしています。でも、コガマは相変わらず少ないようです。

千葉県絶滅危惧種のヒメヘビイチゴ(左)が今年も花をたくさんつけました。環境さえ維持すれば増えるほどの繁殖力をもっているようですが、念のため柵囲いをして保護することになりました。ヒメヘビイチゴに似た種類のヘビイチゴとオヘビイチゴ(右)も花をつけています。この仲間の違いは、ヒメヘビイチゴは赤い実をつけませんし、オヘビイチゴは葉が五枚です。(佐々木光正)



生きもの



5月26日(月)に、柄澤先生にご協力いただき春の生態調査を行いました。子育て中のカルガモに配慮して調査エリアをしばらくりましたが、47種類の生きものを確認しました。今回は特に目新しい発見はありませんでしたが、ジャコウアゲハがビオトープを横切って行ったり、最近姿を見なくなったウシガエルの大きなオタマジャクンに出会うなど、ちょっとした変化も見られました。

(松清 智洋)



ヒオトーフの生きもの

ササグモ ササグモ科



5月から8月にかけてBゾーンのマコモの葉にいるところを見ることが多いが、Aゾーンの稲の葉で見られることもある。一般的にはイネ科の葉で生活していることが多いと言われているが、スギの害虫として知られているスギタマバエの天敵とも言われているので、樹木の葉で生活もしているようだ。徘徊性であるが、葉の裏でじっと獲物が近づくのを待ち、飛び掛って獲る。足には長い蝕肢(黒色の毛)があり、いかにも強そうに見えるクモである。7~8月頃葉を折り曲げて産卵する。体長は雄7~9mm、雌8~11mmである。

シャコグモ エビクモ科



シャコのように細長く、色も薄茶色で似ているところから名づけられた。徘徊性であるが、Aゾーン、Bゾーンとも草の葉の上で脚を前後に伸ばして獲物を待っている姿を見ることが出来る。幼体で越冬し、5~8月、成体を見ることが出来る。8月になると葉の上に産卵し、その上に覆いかぶさるように守っている。体長は雄6~8mm、雌8~11mmである。

(篠崎 将)

カルガモが孵りました

「今日午前中、不耕起水田でカルガモが6羽の雛をつれて泳いでいるのを見つけました。畦には波板があるため、雛が登るのに苦労しているようです。あまり近づくと親鳥は雛から離れてしまいます。双眼鏡での観察をお勧めします」(5月25日、12:48、篠崎)



「子どもたちがザリガニ捕りでカモのいる方へ行くので注意しました。また、立ち入り禁止の看板も設置しておきました。カルガモの写真を添付します。望遠で撮影しています」(5月25日、17:09、小笠原)



ヒメヘビイチゴを囲いました

植物部会の佐々木さんの要望に応じて小笠原さんがヒメヘビイチゴを囲いました。大切に守っていきましょう。(広報)

編集後記

苗の不足のために途中で終わった名戸小5年生による田植えも、延べ3日に亘った不耕起水田の田植えも無事に終了。ここで泥濘との格闘があったことをすっかり忘れたかのように青い波の上を初夏の風が渡り、ツバメが舞っています。鴨の姿もみかけます。5月下旬に予定の「生きもの観察会」は生憎の雨天のため中止になりました。田植えを終えて一段落の6~7月の田んぼでは雑草との闘いが待っています。

引き続きみなさんのご協力をお願いします。

広報担当 (春山)